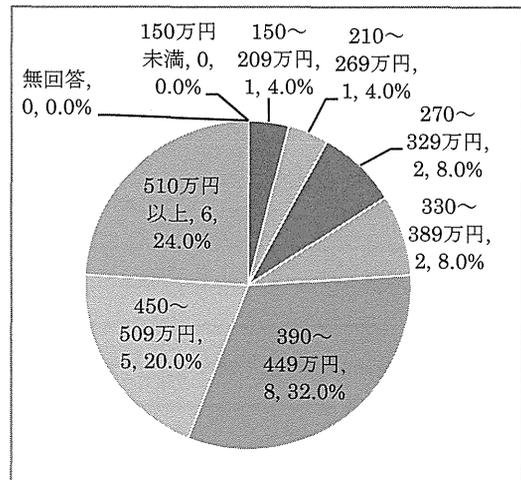


表 9 1年間の収入

	度数	パーセント
150万円未満	0	0.0%
150～209万円	1	4.0%
210～269万円	1	4.0%
270～329万円	2	8.0%
330～389万円	2	8.0%
390～449万円	8	32.0%
450～509万円	5	20.0%
510万円以上	6	24.0%
無回答	0	0.0%
合計	25	100.0%

図 9 1年間の収入



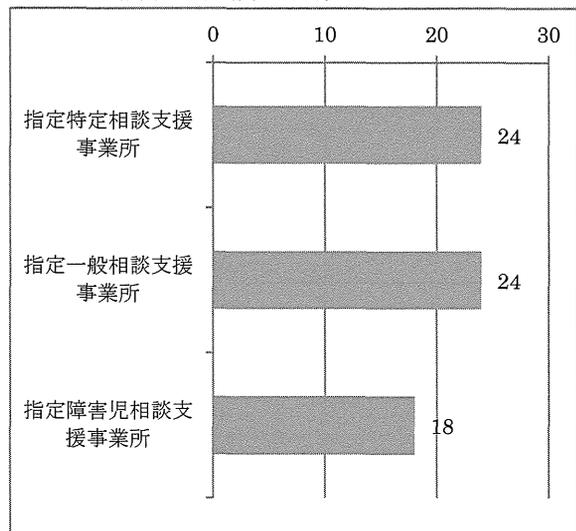
1 0) 所属事業所の種類

指定特定相談支援事業所が 24 名、指定一般相談支援事業所が 24 名、指定障害児相談支援事業所が 18 名となっており、指定特定相談支援事業所と指定一般相談支援事業所の割合が最も高くなっていた（重複あり）。

表 1 0 所属事業所の種類

	度数
指定特定相談支援事業所	24
指定一般相談支援事業所	24
指定障害児相談支援事業所	18

図 1 0 所属事業所の種類



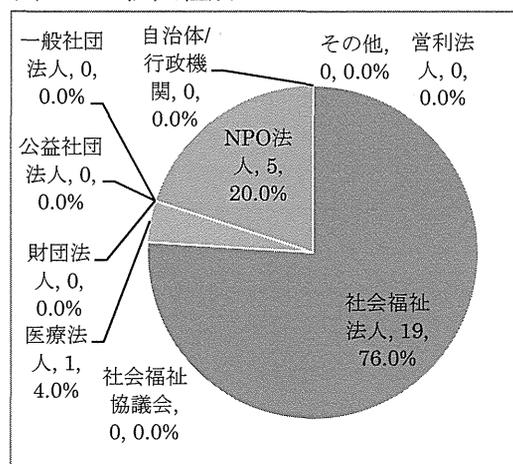
1 1) 所属事業所の法人種別

社会福祉法人が 19 名（76.0%）、医療法人が 1 名（4.0%）、NPO 法人が 5 名（20.0%）となっており、社会福祉法人の割合が最も高くなっていた。

表 1 1 法人種別

	度数	パーセント
社会福祉法人	19	76.0%
社会福祉協議会	0	0.0%
医療法人	1	4.0%
財団法人	0	0.0%
一般社団法人	0	0.0%
公益社団法人	0	0.0%
営利法人	0	0.0%
NPO法人	5	20.0%
自治体/行政機関	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	25	100.0%

図 1 1 法人種別



1 2) 所属事業所に勤務する相談支援専門員の人数

常勤では、1人が5名、2人が6名、3人が6名、4人が5名、5人が3名となっており、2人もしくは3人の割合が最も高くなっていた。

一方、非常勤では、0人が3名、1人が6名、2人が1名となっており、1人の割合が最も高くなっていた。

表 1 2 所属事業所に勤務する相談支援専門員の人数

(常勤)

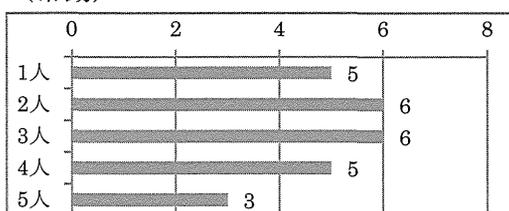
	度数
1人	5
2人	6
3人	6
4人	5
5人	3

(非常勤)

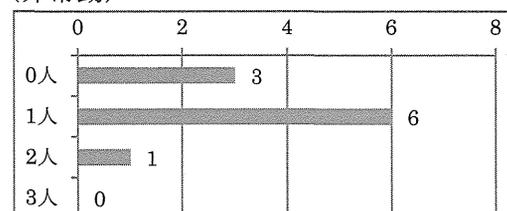
	度数
0人	3
1人	6
2人	1
3人	0

図 1 2 所属事業所に勤務する相談支援専門員の人数

(常勤)



(非常勤)



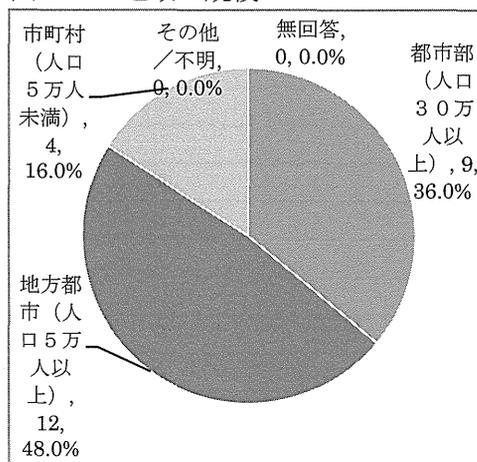
1 3) 所属事業所がある地域の規模

都市部(人口 30 万人以上)が 9 名(36.0%)、地方都市(人口 5 万人以上)が 12 名(48.0%)、市町村(人口 5 万人未満)が 4 名(16.0%)となっており、地方都市の割合が最も高くなっていた。

表 1 3 地域の規模

	度数	パーセント
都市部(人口30万人以上)	9	36.0%
地方都市(人口5万人以上)	12	48.0%
市町村(人口5万人未満)	4	16.0%
その他/不明	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	25	100.0%

図 1 3 地域の規模



(2) 調査対象となる利用者について

調査対象となる利用者については 20 歳代から 50 歳代までが中心となっており、男性で家族同居の割合が高くなっていた。

障害種別は 3 障害でばらけており、身体障害者手帳は 1 級、療育手帳は中軽度、精神保健福祉手帳は 2 級の割合が高くなっていた。

障害程度区分は区分 2・3 と区分 6 の割合が高くなっており、相談支援事業利用開始時から見ると現在までの間で大きな変化は見られなかった。

相談支援事業を利用するに至った経路としては来所の割合が高くなっていた。

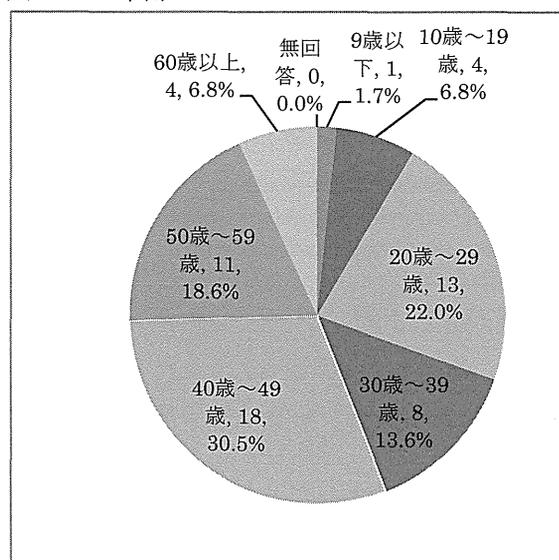
1) 年齢

9 歳以下が 1 名 (1.7%)、10 歳から 19 歳が 4 名 (6.8%)、20 歳から 29 歳が 13 名 (22.0%)、30 歳から 39 歳が 8 名 (13.6%)、40 歳から 49 歳が 18 名 (30.5%)、50 歳から 59 歳が 11 名 (18.6%)、60 歳以上が 4 名 (6.8%) となっており、20 歳代から 50 歳代までで全体の 8 割以上を占めていた。

表 1 4 年齢

	度数	パーセント
9歳以下	1	1.7%
10歳～19歳	4	6.8%
20歳～29歳	13	22.0%
30歳～39歳	8	13.6%
40歳～49歳	18	30.5%
50歳～59歳	11	18.6%
60歳以上	4	6.8%
無回答	0	0.0%
合計	59	100.0%

図 1 4 年齢



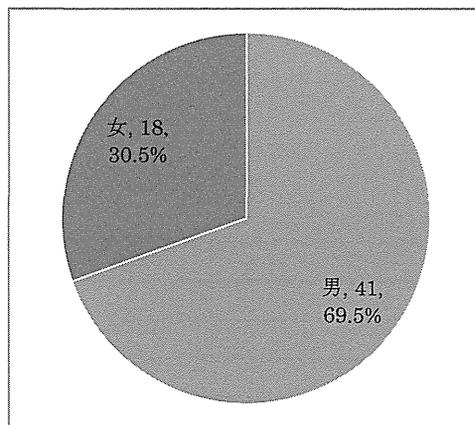
## 2) 性別

男性が 41 名 (69.5%)、女性が 18 名 (30.5%) であり、2:1 の割合で男性が女性よりも多くなっていた。

表 1 5 性別

	度数	パーセント
男	41	69.5%
女	18	30.5%
無回答	0	0.0%
合計	59	100.0%

図 1 5 性別



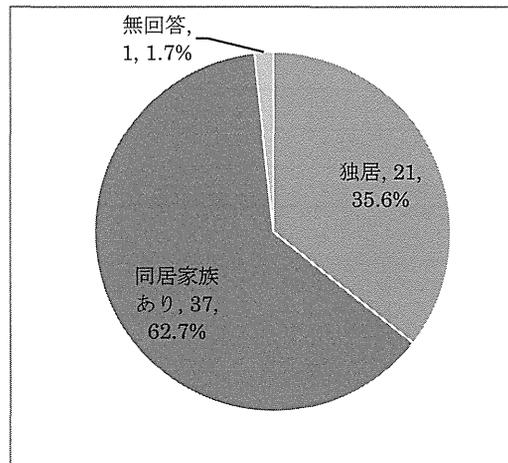
## 3) 現在の家族状況

独居が 21 名 (35.6%)、同居家族ありが 37 名 (62.7%) であり、2:1 の割合で家族同居が独居よりも多くなっていた。

表 1 6 家族状況

	度数	パーセント
独居	21	35.6%
同居家族あり	37	62.7%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 1 6 家族状況



## 4) 現在の障害者手帳の種別・等級

身体障害者手帳が 17 名、療育手帳が 32 名、精神保健福祉手帳が 16 名となっていた (重複保持あり)。

また、身体障害者手帳では、1 級が 10 名、2 級が 2 名、3 級が 1 名、5 級が 2 名、6 級が 2 名であり、療育手帳では、軽度が 11 名、中度が 13 名、重度が 8 名であり、精神保健福祉手帳では 1 級が 2 名、2 級が 9 名、3 級が 1 名であった。

このように、身体障害者手帳は 1 級、療育手帳は中軽度、精神保健福祉手帳は 2 級の割合がそれぞれ高くなっていた。

表 1 7 障害者手帳種別

	度数
身体障害者手帳	17
療育手帳	32
精神保健福祉手帳	16

図 1 7 障害者手帳種別

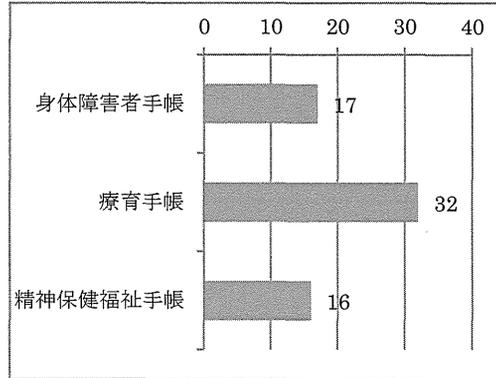


表 1 8 身体障害者手帳

	度数
1級	10
2級	2
3級	1
5級	2
6級	2

図 1 8 身体障害者手帳

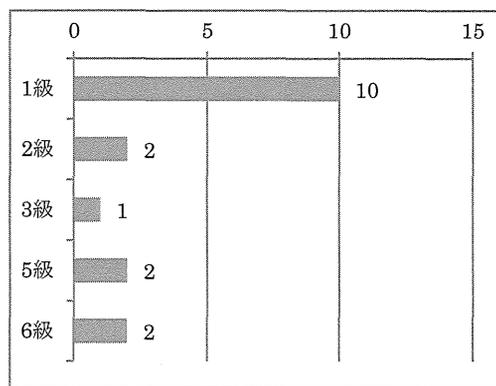


表 1 9 療育手帳

	度数
軽度	11
中度	13
重度	8

図 1 9 療育手帳

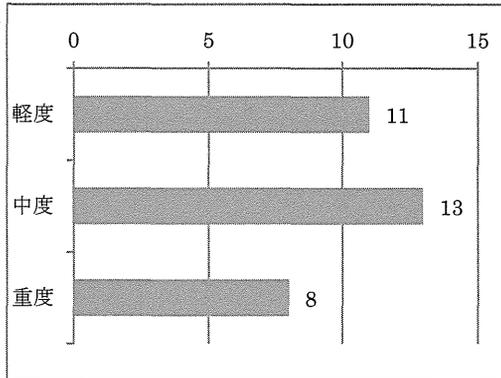
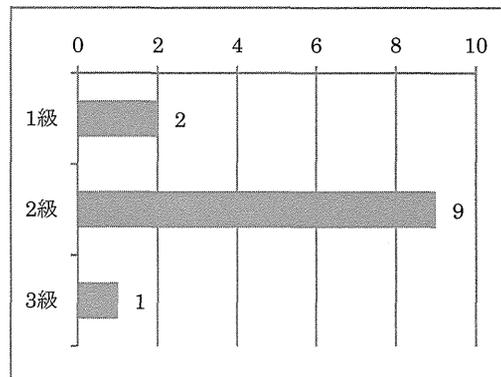


表 2 0 精神保健福祉手帳

	度数
1級	2
2級	9
3級	1

図 2 0 精神保健福祉手帳



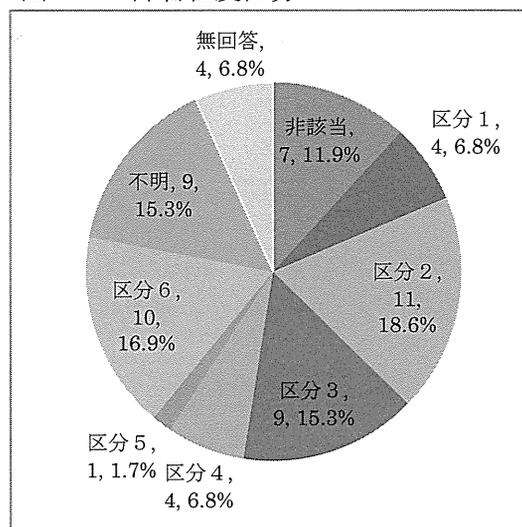
## 5) 現在の障害程度区分

非該当が7名(11.9%)、区分1が4名(6.8%)、区分2が11名(18.6%)、区分3が9名(15.3%)、区分4が4名(6.8%)、区分5が1名(1.7%)、区分6が10名(16.9%)となっており、区分2・3と区分6の割合が高くなっていた。

表2-1 障害程度区分

	度数	パーセント
非該当	7	11.9%
区分1	4	6.8%
区分2	11	18.6%
区分3	9	15.3%
区分4	4	6.8%
区分5	1	1.7%
区分6	10	16.9%
不明	9	15.3%
無回答	4	6.8%
合計	59	100.0%

図2-1 障害程度区分



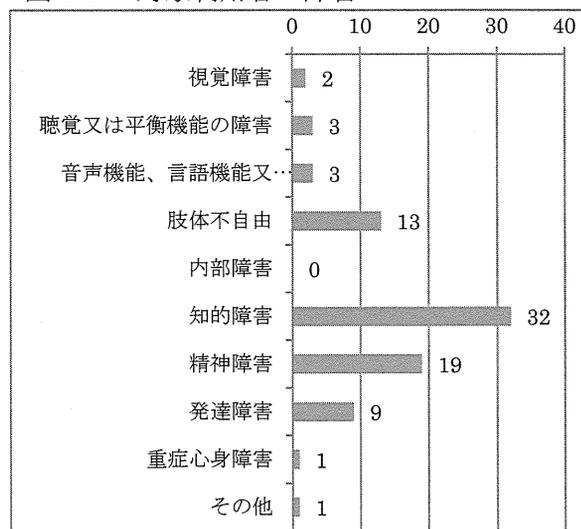
## 6) 対象利用者の現在の障害について

視覚障害が2名、聴覚または平衡機能の障害が3名、音声機能、言語機能又はそしゃく機能の障害が3名、肢体不自由が13名、知的障害が32名、精神障害が19名、発達障害が9名、重症心身障害が1名、その他が1名となっており、知的障害の割合が高くなっていた(重複あり)。

表2-2 対象利用者の障害

	度数
視覚障害	2
聴覚又は平衡機能の障害	3
音声機能、言語機能又はそしゃく機能の障害	3
肢体不自由	13
内部障害	0
知的障害	32
精神障害	19
発達障害	9
重症心身障害	1
その他	1

図2-2 対象利用者の障害



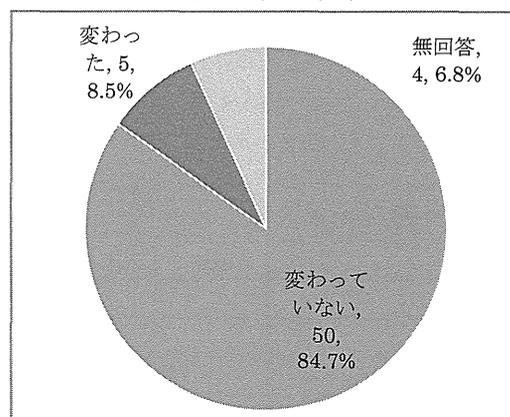
## 7) 障害程度区分の変化

変わっていないが50名(84.7%)、変わったが5名(8.5%)であり、相談支援事業利用開始時から現在までの間で障害程度区分に大きな変化は見られなかった。

表 2 3 障害程度区分の変化

	度数	パーセント
変わっていない	50	84.7%
変わった	5	8.5%
無回答	4	6.8%
合計	59	100.0%

図 2 3 障害程度区分の変化



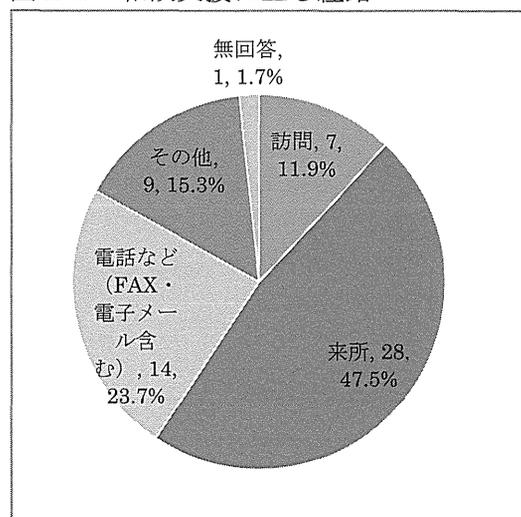
### 8) 相談支援に至る経路

訪問が 7 名 (11.9%)、来所が 28 名 (47.5%)、電話などが 14 名 (23.7%)、その他が 9 名 (15.3%) となっており、来所による割合が高くなっていた。

表 2 4 相談支援に至る経路

	度数	パーセント
訪問	7	11.9%
来所	28	47.5%
電話など(FAX・電子メール含む)	14	23.7%
その他	9	15.3%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 2 4 相談支援に至る経路



### (3) 現在の利用者の状態について

ADL、移動については自立している、心理・精神面、周囲との関係面、健康管理、についてはある程度自立している、経済生活経済環境、全体の生活から見た自立度についてはやや自立しているとされる傾向にあった。

そのような状況の中で、利用者自身が大切にしていると思われる項目として、心理・精神面や周囲との関係面が多く挙げられる傾向にあった。

また、ケアマネジメントについて、利用者信頼関係を築き、各種調整を行い、連携して支援を行うことにより、利用者の心理・精神面や周囲との関係面にそれなりに影響を及ぼすと評価される傾向にあった。

そしてそれらのことを踏まえた上で、利用者には地域で暮らす力があり、施設入所は考えられていないとされる傾向にあることがわかった。

## 1) ADL

ADLについて、家事以外のおおむねひとりでできるとされる傾向にあることがわかった。

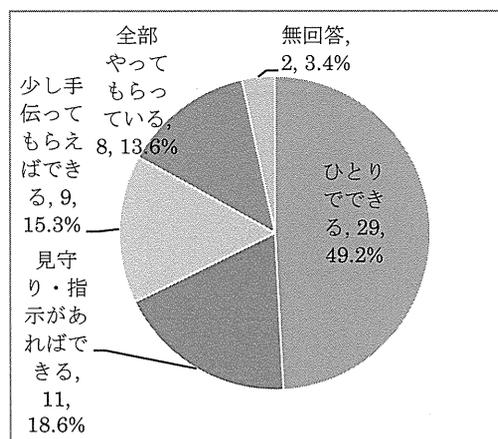
### ① 身辺処理に関して

ひとりでできるが 29 名 (49.2%)、見守り・指示があればできるが 11 名 (18.6%)、少し手伝ってもらえればできるが 9 名 (15.3%)、全部やってもらっているが 8 名 (13.6%) であった。このように、身辺処理に関してひとりでできるとされる傾向にあることがわかった。

表 2 5 身辺処理に関して

	度数	パーセント
ひとりでできる	29	49.2%
見守り・指示があればできる	11	18.6%
少し手伝ってもらえればできる	9	15.3%
全部やってもらっている	8	13.6%
無回答	2	3.4%
合計	59	100.0%

図 2 5 身辺処理に関して



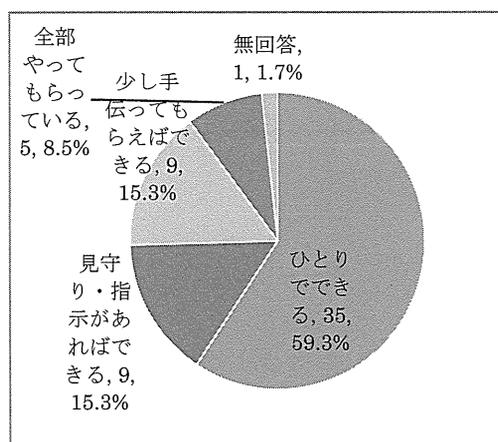
### ② 食事に関して

ひとりでできるが 35 名 (59.3%)、見守り・指示があればできるが 9 名 (15.3%)、少し手伝ってもらえればできるが 9 名 (15.3%)、全部やってもらっているが 5 名 (8.5%) であった。このように、食事に関してひとりでできるとされる傾向にあることがわかった。

表 2 6 食事に関して

	度数	パーセント
ひとりでできる	35	59.3%
見守り・指示があればできる	9	15.3%
少し手伝ってもらえればできる	9	15.3%
全部やってもらっている	5	8.5%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 2 6 食事に関して



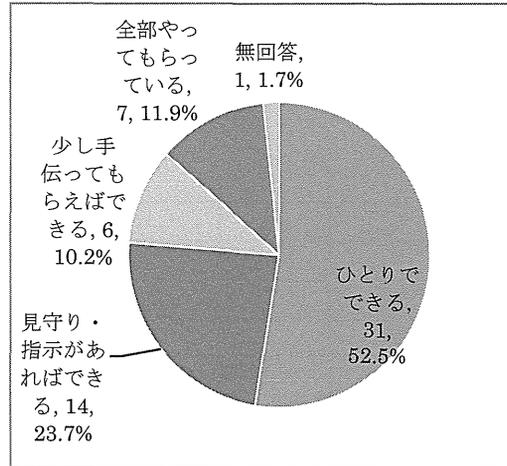
③ 入浴に関して

ひとりでできるが 31 名 (52.5%)、見守り・指示があればできるが 14 名 (23.7%)、少し手伝ってもらえばできるが 6 名 (10.2%)、全部やってもらっているが 5 名 (8.5%) であった。このように、入浴に関してひとりでできるとされる傾向にあることがわかった。

表 2 7 入浴に関して

	度数	パーセント
ひとりでできる	31	52.5%
見守り・指示があればできる	14	23.7%
少し手伝ってもらえばできる	6	10.2%
全部やってもらっている	7	11.9%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 2 7 入浴に関して



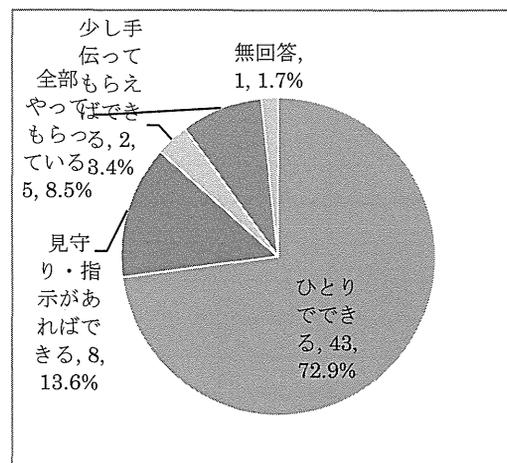
④ 排泄に関して

ひとりでできるが 43 名 (72.9%)、見守り・指示があればできるが 8 名 (13.6%)、少し手伝ってもらえばできるが 2 名 (3.4%)、全部やってもらっているが 5 名 (8.5%) であった。このように、排泄に関してひとりでできるとされる傾向にあることがわかった。

表 2 8 排泄に関して

	度数	パーセント
ひとりでできる	43	72.9%
見守り・指示があればできる	8	13.6%
少し手伝ってもらえばできる	2	3.4%
全部やってもらっている	5	8.5%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 2 8 排泄に関して



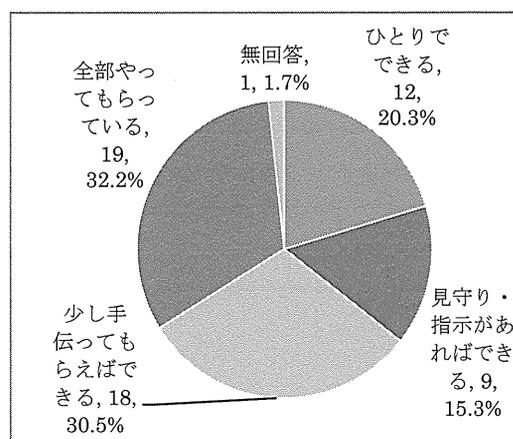
⑤ 家事に関して

ひとりでできるが 12 名 (20.3%)、見守り・指示があればできるが 9 名 (15.3%)、少し手伝ってもらえばできるが 18 名 (30.5%)、全部やってもらっているが 19 名 (32.2%) であった。このように、家事に関して全部やってもらっているとされる傾向にあることがわかった。

表 2 9 家事に関して

	度数	パーセント
ひとりでできる	12	20.3%
見守り・指示があればできる	9	15.3%
少し手伝ってもらえればできる	18	30.5%
全部やってもらっている	19	32.2%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 2 9 家事に関して



2) 心理・精神面

心理・精神面について、やや安定しているとされる傾向にあることがわかった。

① 生きがい・希望・好きなこと

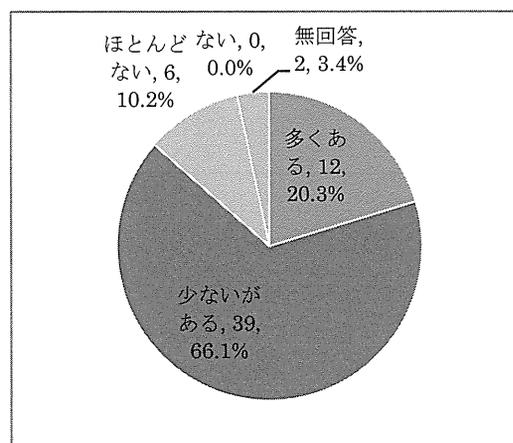
多くあるが 12 名 (20.3%)、少ないがあるが 39 名 (66.1%)、ほとんどないが 6 名 (10.2%) であった。

このように、生きがい・希望・好きなことに関して少ないがあるとされる傾向にあることがわかった。

表 3 0 生きがい・希望・好きなこと

	度数	パーセント
多くある	12	20.3%
少ないがある	39	66.1%
ほとんどない	6	10.2%
ない	0	0.0%
無回答	2	3.4%
合計	59	100.0%

図 3 0 生きがい・希望・好きなこと



② 精神面の安定

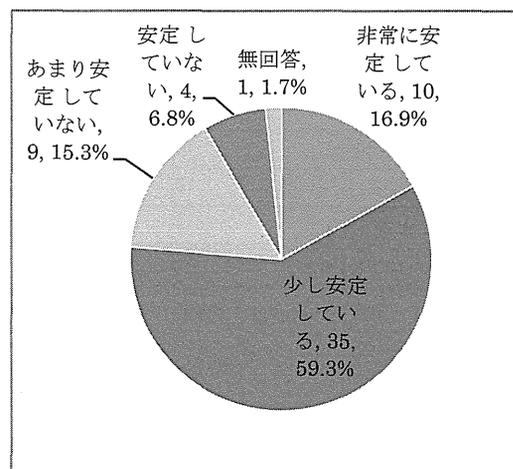
非常に安定しているが 8 名 (10.1%)、少し安定しているが 55 名 (69.6%)、あまり安定していないが 13 名 (16.5%)、安定していないが 1 名 (1.3%) であった。

このように、精神面の安定に関して少し安定しているとされる傾向にあることがわかった。

表 3 1 精神面の安定

	度数	パーセント
非常に安定している	10	16.9%
少し安定している	35	59.3%
あまり安定していない	9	15.3%
安定していない	4	6.8%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 3 1 精神面の安定



### 3) 周囲との関係面

周囲との関係面について、家族関係以外少ないがあるとされる傾向にあることがわかった。

#### ① 日中活動での人間関係

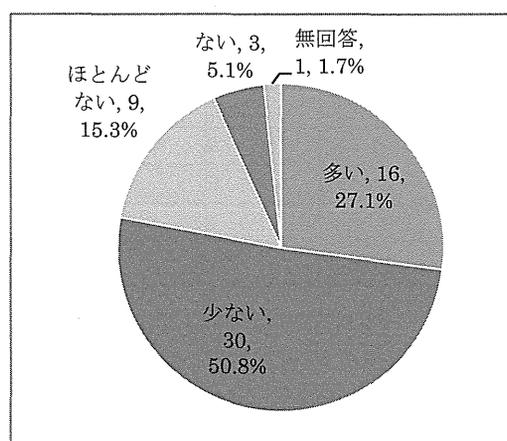
多いが 16 名 (27.1%)、少ないが 30 名 (50.8%)、ほとんどないが 9 名 (15.3%)、ないが 3 名 (5.1%) であった。

このように、日中活動での人間関係に関して少ないとされる傾向にあることがわかった。

表 3 2 日中活動の人間関係

	度数	パーセント
多い	16	27.1%
少ない	30	50.8%
ほとんどない	9	15.3%
ない	3	5.1%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 3 2 日中活動の人間関係



#### ② 支援する人の存在

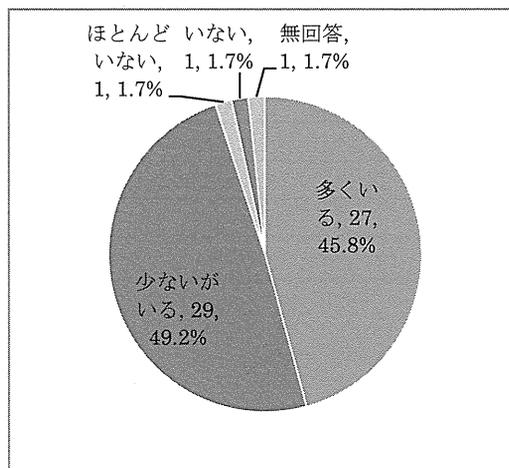
多くいるが 35 名 (44.3%)、少ないがいるが 38 名 (43.1%)、ほとんどいないが 4 名 (5.1%) であった。

このように、支援する人の存在に関して少ないがいるとされる傾向にあることがわかった。

表 3 3 支援する人の存在

	度数	パーセント
多くいる	27	45.8%
少ないがいる	29	49.2%
ほとんどいない	1	1.7%
いない	1	1.7%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 3 3 支援する人の存在



### ③ 家族関係

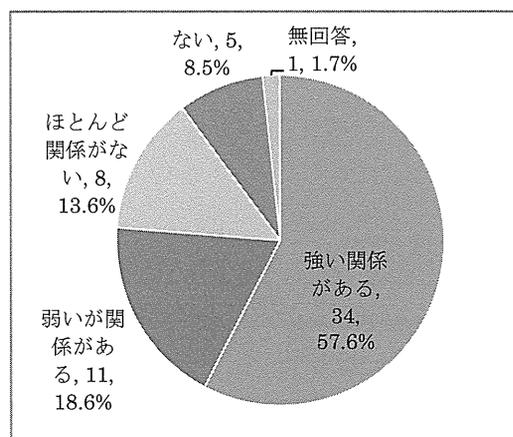
強い関係があるが 34 名 (57.6%)、弱いがあるが 11 名 (18.6%)、ほとんど関係がないが 8 名 (13.6%)、ないが 5 名 (8.5%) であった。

このように、家族関係に関して強い関係があるとされる傾向にあることがわかった。

表 3 4 家族関係

	度数	パーセント
強い関係がある	34	57.6%
弱いがある	11	18.6%
ほとんど関係がない	8	13.6%
ない	5	8.5%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 3 4 家族関係



## 4) 健康管理

健康管理について、見守り・指示があればできるとされる傾向にあることがわかった。

### ① 健康管理

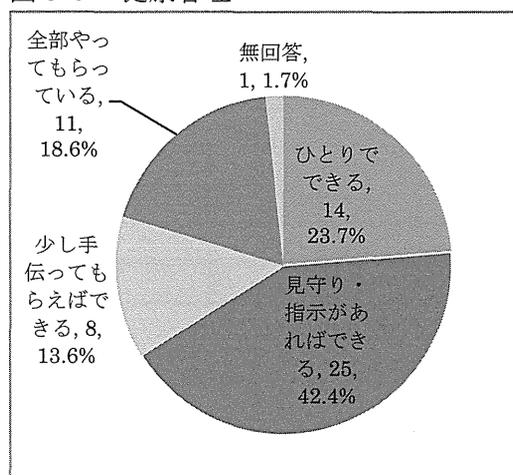
ひとりでできるが 14 名 (23.7%)、見守り・指示があればできるが 25 名 (42.4%)、少し手伝ってもらえればできるが 8 名 (13.6%)、全部やってもらっているが 11 名 (18.6%) であった。

このように、健康管理に関して見守り・指示があればできるとされる傾向にあることがわかった。

表 3 5 健康管理

	度数	パーセント
ひとりできる	14	23.7%
見守り・指示があればできる	25	42.4%
少し手伝ってもらえればできる	8	13.6%
全部やってもらっている	11	18.6%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 3 5 健康管理



5) 経済生活・経済環境

経済生活・経済環境について、少し手伝ってもらえできるとされる傾向にあることがわかった。

① 金銭管理

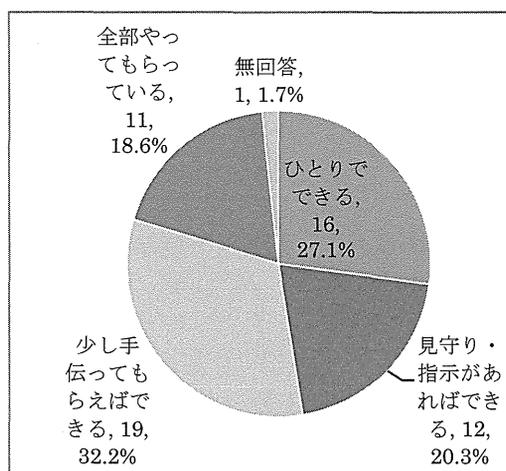
ひとりできるが 15 名 (19.0%)、見守り・指示があればできるが 29 名 (36.7%)、少し手伝ってもらえればできるが 21 名 (26.6%)、全部やってもらっているが 12 名 (15.2%) であった。

このように、金銭管理に関して少し手伝ってもらえできるとされる傾向にあることがわかった。

表 3 6 金銭管理

	度数	パーセント
ひとりできる	16	27.1%
見守り・指示があればできる	12	20.3%
少し手伝ってもらえればできる	19	32.2%
全部やってもらっている	11	18.6%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 3 6 金銭管理



6) 移動

移動について、ひとりできるとされる傾向にあることがわかった。

### ① 移動・交通機関の利用

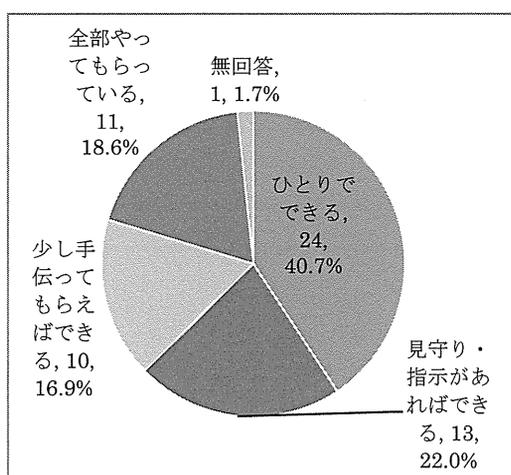
ひとりでできるが 24 名 (40.7%)、見守り・指示があればできるが 13 名 (22.0%)、少し手伝ってもらえればできるが 10 名 (16.9%)、全部やってもらっているが 11 名 (18.6%) であった。

このように、移動・交通機関の利用に関してひとりでできるとされる傾向にあることがわかった。

表 3 7 移動・交通機関の利用

	度数	パーセント
ひとりでできる	24	40.7%
見守り・指示があればできる	13	22.0%
少し手伝ってもらえればできる	10	16.9%
全部やってもらっている	11	18.6%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 3 7 移動・交通機関の利用



### ② 住宅内の移動

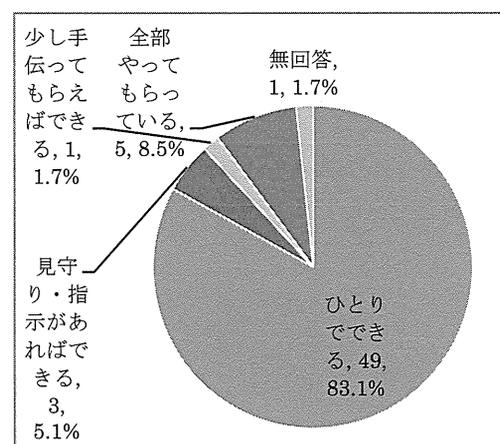
ひとりでできるが 49 名 (83.1%)、見守り・指示があればできるが 3 名 (5.1%)、少し手伝ってもらえればできるが 1 名 (1.7%)、全部やってもらっているが 5 名 (8.5%) であった。

このように、住宅内の移動に関してひとりでできるとされる傾向にあることがわかった。

表 3 8 住宅内の移動

	度数	パーセント
ひとりでできる	49	83.1%
見守り・指示があればできる	3	5.1%
少し手伝ってもらえればできる	1	1.7%
全部やってもらっている	5	8.5%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 3 8 住宅内の移動



### 7) 全体の生活から見た自立度

全体の生活から見た自立度について、少し手伝ってもらえればできるとされる傾向にあることがわかった。

### ① 自立した生活

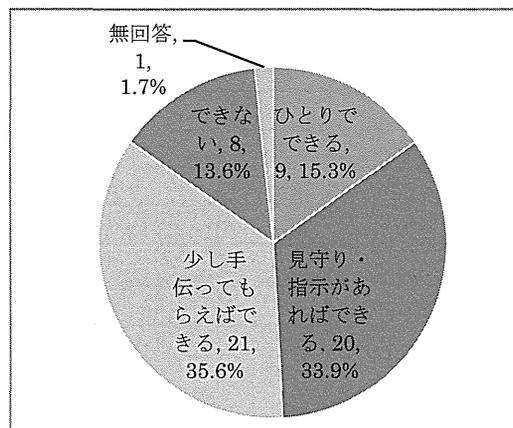
ひとりでできるが 9 名 (15.3%)、見守り・指示があればできるが 20 名 (33.9%)、少し手伝ってもらえればできるが 21 名 (35.6%)、できないが 8 名 (13.6%) であった。

このように、自立した生活に関して少し手伝ってもらえればできるとされる傾向にあることがわかった。

表 3 9 自立した生活

	度数	パーセント
ひとりでできる	9	15.3%
見守り・指示があればできる	20	33.9%
少し手伝ってもらえればできる	21	35.6%
できない	8	13.6%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 3 9 自立した生活



#### (4) 対象利用者が大切にしていると思われる項目

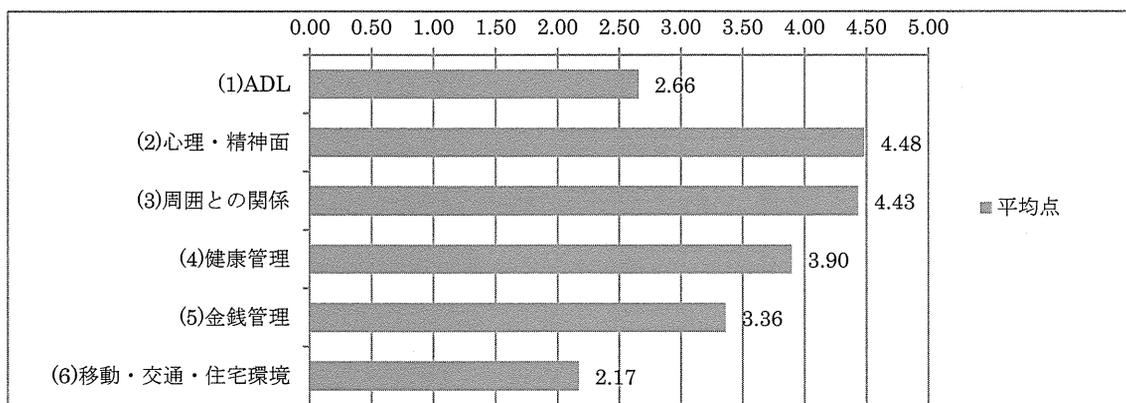
対象利用者が大切にしていると思われる項目について、心理・精神面と周囲との関係面で平均点が高い傾向にあることがわかった。

表 4 0 対象利用者が大切にしていると思われる項目

	平均点
(1)ADL	2.66
(2)心理・精神面	4.48
(3)周囲との関係	4.43
(4)健康管理	3.90
(5)金銭管理	3.36
(6)移動・交通・住宅環境	2.17

※ 1 位を 6 ポイント、2 位を 5 ポイント、3 位を 4 ポイント、4 位を 3 ポイント、5 位を 2 ポイント、6 位を 1 ポイントにした平均値

図 4 0 対象利用者が大切にしていると思われる項目



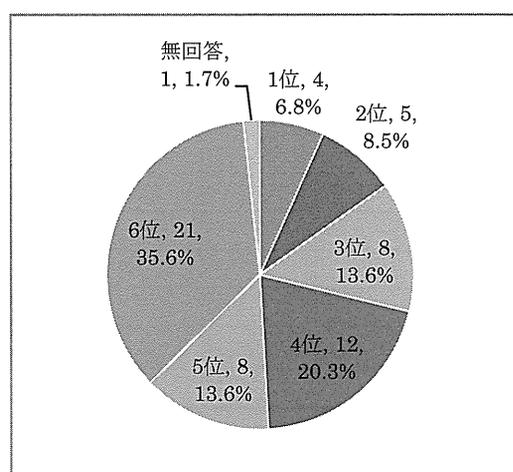
1) ADL

対象利用者が大切にしていると思われる度合いは高くなかった。

表 4 1 ADL

	度数	パーセント
1位	4	6.8%
2位	5	8.5%
3位	8	13.6%
4位	12	20.3%
5位	8	13.6%
6位	21	35.6%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 1 ADL



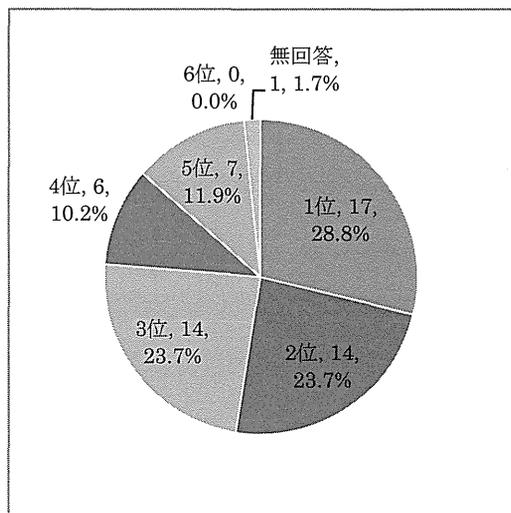
2) 心理・精神面

対象利用者が大切にしていると思われる度合いは高かった。

表 4 2 心理・精神面

	度数	パーセント
1位	17	28.8%
2位	14	23.7%
3位	14	23.7%
4位	6	10.2%
5位	7	11.9%
6位	0	0.0%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 2 心理・精神面



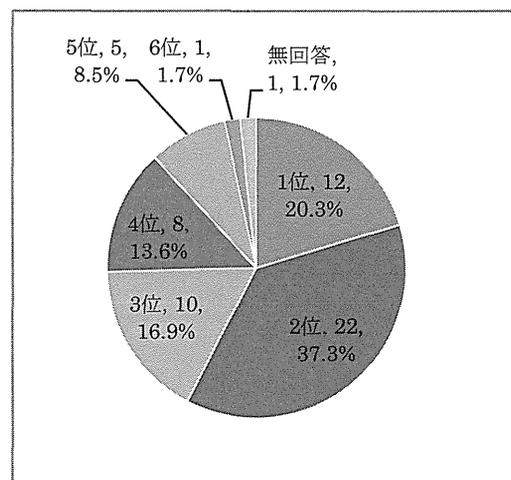
### 3) 周囲との関係面

対象利用者が大切にしていると思われる度合いは高かった。

表 4 3 周囲との関係面

	度数	パーセント
1位	12	20.3%
2位	22	37.3%
3位	10	16.9%
4位	8	13.6%
5位	5	8.5%
6位	1	1.7%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 3 周囲との関係面



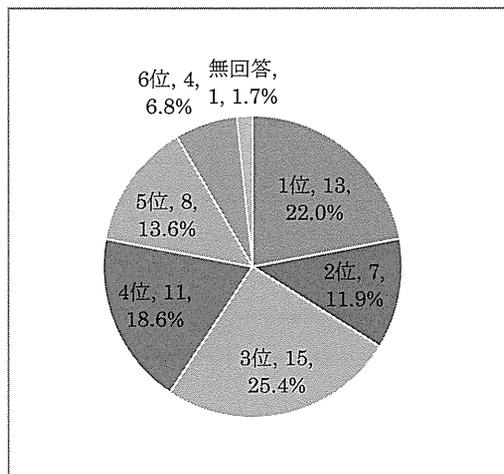
### 4) 健康管理

対象利用者が大切にしていると思われる度合いは高くもなく低くもなかった。

表 4 4 健康管理

	度数	パーセント
1位	13	22.0%
2位	7	11.9%
3位	15	25.4%
4位	11	18.6%
5位	8	13.6%
6位	4	6.8%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 4 健康管理



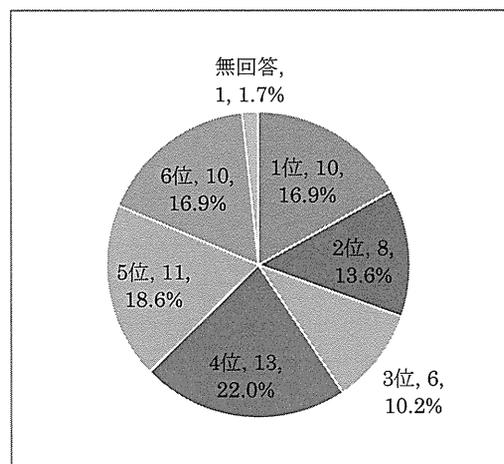
5) 金銭管理

対象利用者が大切にしていると思われる度合いは高くもなく低くもなかった。

表 4 5 金銭管理

	度数	パーセント
1位	10	16.9%
2位	8	13.6%
3位	6	10.2%
4位	13	22.0%
5位	11	18.6%
6位	10	16.9%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 5 金銭管理



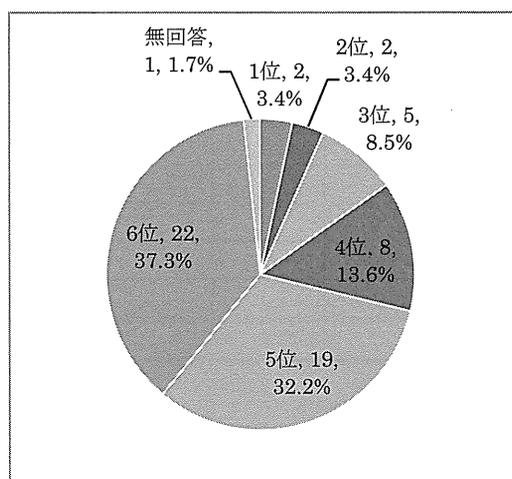
6) 移動・交通・住宅環境

対象利用者が大切にしていると思われる度合いは高くもなく低くもなかった。

表 4 6 移動・交通・住宅環境

	度数	パーセント
1位	2	3.4%
2位	2	3.4%
3位	5	8.5%
4位	8	13.6%
5位	19	32.2%
6位	22	37.3%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 6 移動・交通・住宅環境



(5) 利用者の地域生活の状況は利用者の評価と一致していると思うか

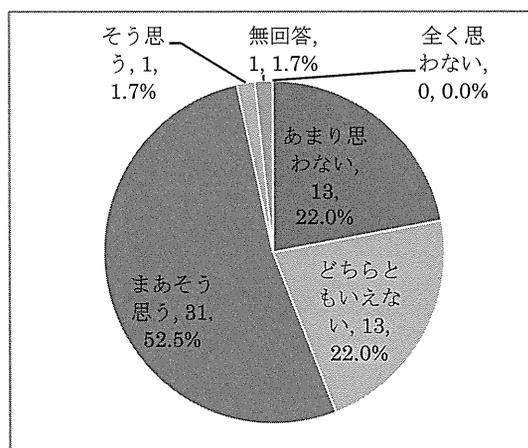
利用者の地域生活の状況について相談支援専門員と利用者の評価が一致していると思うかという項目について、あまり思わないが 13 名 (22.0%)、どちらともいえないが 13 名 (22.0%)、まあそう思うが 31 名 (52.5%)、そう思うが 1 名 (1.7%) であった。

このように、利用者の在宅生活の状況について相談支援専門員と利用者の評価がある程度一致しているとされる傾向にあった。

表 4 7 利用者の評価との一致度

	度数	パーセント
全く思わない	0	0.0%
あまり思わない	13	22.0%
どちらともいえない	13	22.0%
まあそう思う	31	52.5%
そう思う	1	1.7%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 7 利用者の評価との一致度



(6) 相談支援が利用者の評価の変化に影響していると考えるか

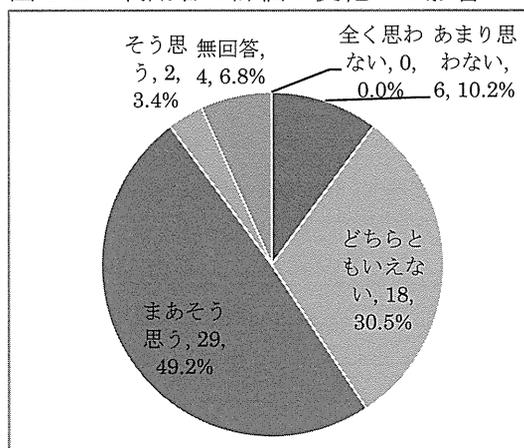
相談支援専門員の相談支援が利用者の評価の変化に影響しているかという項目について、あまり思わないが 6 名 (10.2%)、どちらともいえないが 18 名 (30.5%)、まあそう思うが 29 名 (49.2%)、そう思うが 2 名 (3.4%) であった。

このように、相談支援専門員の相談支援が利用者の評価の変化にある程度影響しているとされる傾向にあった。

表 4 8 利用者の評価の変化への影響

	度数	パーセント
全く思わない	0	0.0%
あまり思わない	6	10.2%
どちらともいえない	18	30.5%
まあそう思う	29	49.2%
そう思う	2	3.4%
無回答	4	6.8%
合計	59	100.0%

図 4 8 利用者の評価の変化への影響



(7) 相談支援が利用者の評価の変化に影響している場合どの領域に影響を与えたと思うか

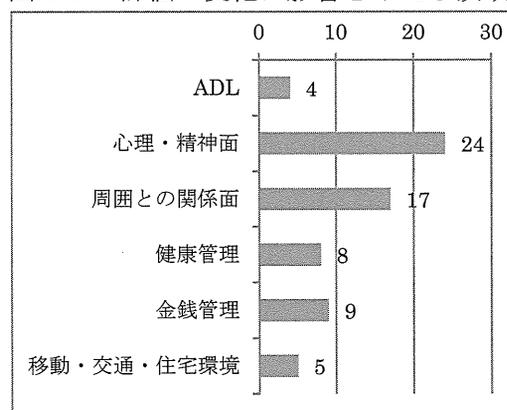
相談支援がどのような面において利用者の評価の変化に影響を与えるかという項目について、ADLが4名、心理・精神面が24名、周囲との関係面が17名、健康管理が8名、金銭管理が9名、移動・交通・住宅環境が5名であった。

このように、相談支援が利用者の評価の変化に影響を及ぼすことが想定される面について、心理・精神面や周囲との関係面が多くあげられる傾向にあった。

表 4 9 評価の変化に影響を与える領域

	度数
ADL	4
心理・精神面	24
周囲との関係面	17
健康管理	8
金銭管理	9
移動・交通・住宅環境	5

図 4 9 評価の変化に影響を与える領域



(8) 相談支援が利用者の評価の変化に影響している場合どのような支援内容がその変化に関連していると考えるか

どのような相談支援の支援内容が利用者の評価に影響していると考えられるかということについて、信頼関係を築き、サービスの提供にあたって詳細な調整を行い、チームメンバーがチームで援助することを認識することの重要性が指摘される傾向にあった。